

令和3年度 学校経営計画表 (定時制・昼間制)

1 学校の現況

学校番号	22		学校名	県立水戸南高等学校				課程	定時制、通信制		学校長名	川内 孝雄				
教頭名	菅谷 則行 (定時制・昼間制)			小塚 正代 (定時制・夜間制)			井上 宏孝 (通信制)			事務室長名	千葉 一夫					
教職員数	教諭	66	養護教諭	2	常勤講師	5	非常勤講師	13	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	6	技術職員等	9	計	107
生徒数	課程・学科			1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	定時制(昼)普通科			30	24	40	25	32	27	9	7	111	83	8		
	定時制(夜)普通科			5	2	8	6	8	1	1	2	22	11	4		
	通信制普通科			46	74	62	74	56	75	57	80	221	303	24		
ライフデザイン科			17	27	11	22	11	25			39	74	3			

2 目指す学校像

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」

単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。

JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
進路指導	卒業後もアルバイトの継続や在家庭の生徒が多い。昨年度は最後まで就職活動を継続した生徒全員が就職できた。進学は、課外授業等、個別指導で実力を養成し、国公立大学2名を含む約20名が合格した。進路実現への一歩目を踏み出せない生徒がいる。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力・コミュニケーション能力の増進 3年間を見通した系統的なキャリア教育の取り組みによる、望ましい勤労観・職業観の育成 進路情報の積極的な提供による進路意識の高揚 進路実現への具体的・実践的なステップの提示
学習指導	基礎学力が身に付いていない生徒や様々な支援が必要な生徒が多数入学する。その上、年々低学力・低意欲の傾向も見られる。しかし、一方で、学び直しや、基礎学力向上の取り組み等により、改善が図られ、見違える様な成長を遂げる生徒も数多い。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着のためのより有効な手立て 日本語の理解力が乏しい外国籍生徒の支援 本校生徒の実態にあった、新学習指導要領に示された新しい課題への対応 GIGAスクール構想への対応 高い目標を持つ生徒への対応
生徒指導 教育相談 特別支援	精神的な悩みを抱えた不登校の傾向にある生徒が多く入学している(令和3年度入学生の年間30日以上欠席率20%、100日以上欠席率39%)。入学後は、生徒に寄り添う指導と、生徒自身の向上心から学校生活は、着実に改善している(年間30日以上欠席率15%。転退学者等を除く)。また、特別な支援や配慮を必要とする生徒の入学も増加傾向にあり、個性豊かで多様性に溢れている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導や教育相談に関する情報共有を生かした指導体制の構築 規範意識の高揚(マナーやモラルの向上) キャンパスエイド等、各種支援事業の運用 個々の教育的ニーズに応じた指導の充実 SSW、各種支援機関等との連携・協力 組織全体で取り組む体制の継続・発展

特別活動	人間関係など課題を抱え、上手く集団生活を営めない生徒が増えている一方で、生徒会や部活動に熱心に取り組む生徒もいる。ボランティアへの参加はあまり見られない。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動の内容の工夫・充実 ・定通体育大会、生徒生活体験発表会、ボランティア、各種イベント・コンテスト等への積極的な参加の奨励 ・キャリア・パスポートの効果的な活用
働き方改革	超過勤務時間の平均は、令和2年6月：16時間47分、同年10月：16時間33分であった。しかしながら、一部の教職員については若干超過勤務時間が長く、超過勤務時間が月によっては45時間／月を超えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人の意識改革 ・ICTの活用による校務の効率化 ・教科内や分掌内における資料等の共有化と活用

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 よりよい進路選択をするため、自ら情報を収集し、実現に向けて計画的に進める能力の育成を目指す。進路ガイダンスやキャリア・パスポートの積極的な活用を通して、低学年からキャリア教育を推進し、進路意識を高めていく。 2 文化やスポーツの能力を伸長する生徒、働きながら学ぶ生徒にも対応できる、単位制や三課程の特色を生かした普通科教育の場として、中学校卒業の生徒が進路先として選ぶ高校であることを定着させる。 3 交通至便な立地にある静かな学びの場で、小中学校で不登校を経験した生徒などが落ち着いて学習できる環境を提供するとともに、学び直しや中途入学の高校として、一人一人の目標実現に寄与する。 4 髪型や服装への制約やストレスがなく、生徒が自分自身と向き合う場として、学校本来の大切さを感じることができるオーソドックスな高校であることを中学校や社会に周知する。 5 教職員一人一人が働き方改革に取り組み、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行う。 6 自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるとともに、自己が生来もつリソース（強み）に気付き、個性の伸長を目指す姿勢を身に付けさせる。

5 本年度の重点目標（定時制・昼間制）

重点項目	重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的な進路選択と進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 ・日頃の教育活動全般をとおしたキャリア教育に努め、様々な状況に応じて適切な進路指導を行う。 ・生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的な取得を目指す。 ・最後まで諦めず、妥協せず、挑戦する勇気を持ち、進路実現を目指すよう継続的に指導する。
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・ICTの活用等により、生徒の関心・意欲を引き出し、学ぶ喜びやわかる楽しさを実感できる授業を行うとともに、授業の中で自分の考えや意見を表現できるよう工夫・改善を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導及び一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に寄り添った指導によって基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、自己肯定感・自己有用感を高める。 ・学校生活や様々な体験活動をとおして、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の育成を目指す。 ・道徳教育を含む教育活動全体をとおして自他共に尊重できる姿勢を養い、いじめのない生活環境を整える。 ・スクールカウンセラーや教育相談員、キャンパスエイド等、外部人材との連携により、生徒一人一人に応じた支援を充実させる。また、学習や生活上の困難に対する個に応じた指導の充実を図るとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解に努める。 ・ボランティアや各種イベント、コンテストなどへの積極的な参加を促す。
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・南祭(文化祭)や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事をとおして主体的に行動できる態度を養う。 ・部活動の活性化を図り、意欲的な取組と定通大会への積極的な参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを有効に活用し、主体的に学びに向かう力を育むとともに、自己実現につなげていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質向上 (働き方改革) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の積極的な研修参加により、教職員としてのスキルアップに努める。中でも、ICT活用やアクティブ・ラーニング等の研修を行うことで、授業改善や業務の効率化を図っていく。 ・在校時間を適切に把握し、一人一人の工夫とチームの協働体制を構築し、業務の効率化に努める。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信による学校への理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやパンフレット、リーフレット等を通じ、学校行事等の様子を発信すること。 ・中学校等を訪問又は公開等を行って、本校のさらなる理解促進を図るとともに、入学者の確保に努める。